

コンタクトレンズ適正使用に関するアンケート結果概要

背景:コンタクトレンズの不適切なケアや長時間又は交換期間を超えた装用等により
感染性角膜潰瘍等、重篤な眼障がいの発生が報告されている。

コンタクトレンズの使用者が急増する高校生を対象とした啓発活動が重要。

目的:本アンケートを実施することで、教育現場での指導状況を把握するとともに、
より効果的な学生(高校生)を対象とした啓発方法や内容を検討する。

対 象:府立高等学校及び高等部を設置している支援学校(177校)

実施期間:令和4年8月1日から同年8月31日

回答方法:WEB

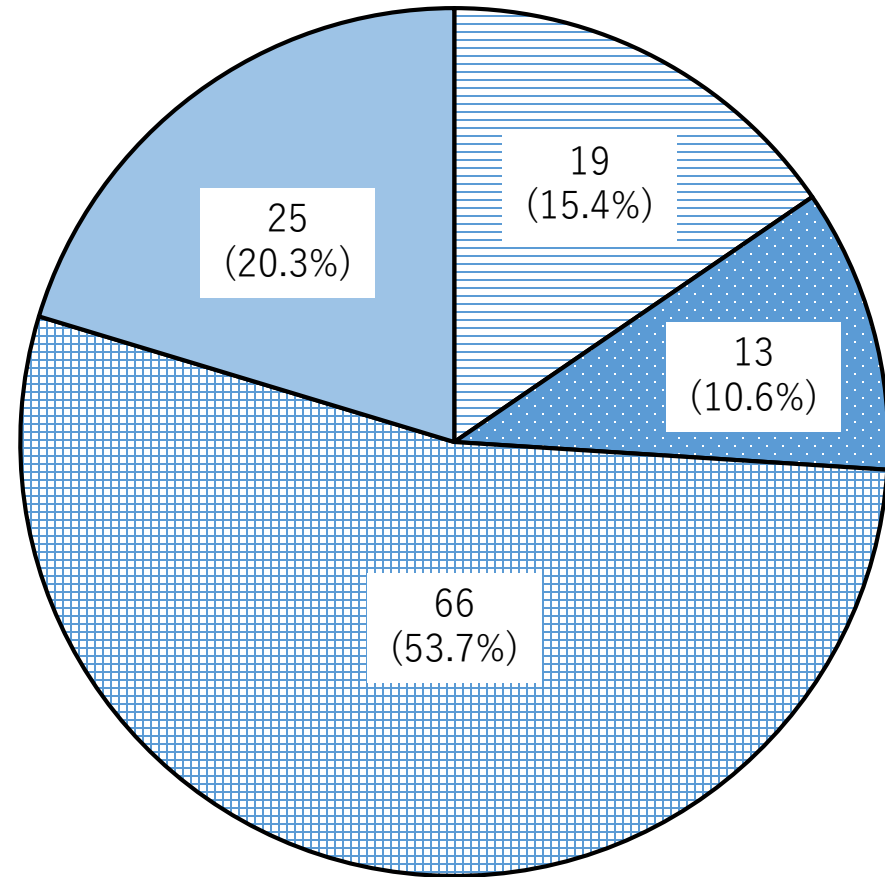
回 答 数:123校(回収率69.49%)

[1-1]学校で生徒がコンタクト
レンズ適正使用に関して指導
する機会がありますか。

1年に数回程度	19(15.4%)
1年に1回程度	13(10.6%)
2年に1回程度	0(0.0%)
3年に1回程度	0(0.0%)
不定期	66(53.7%)
機会なし	25(20.3%)

※母数は回答があった学校数(123校)

指導頻度

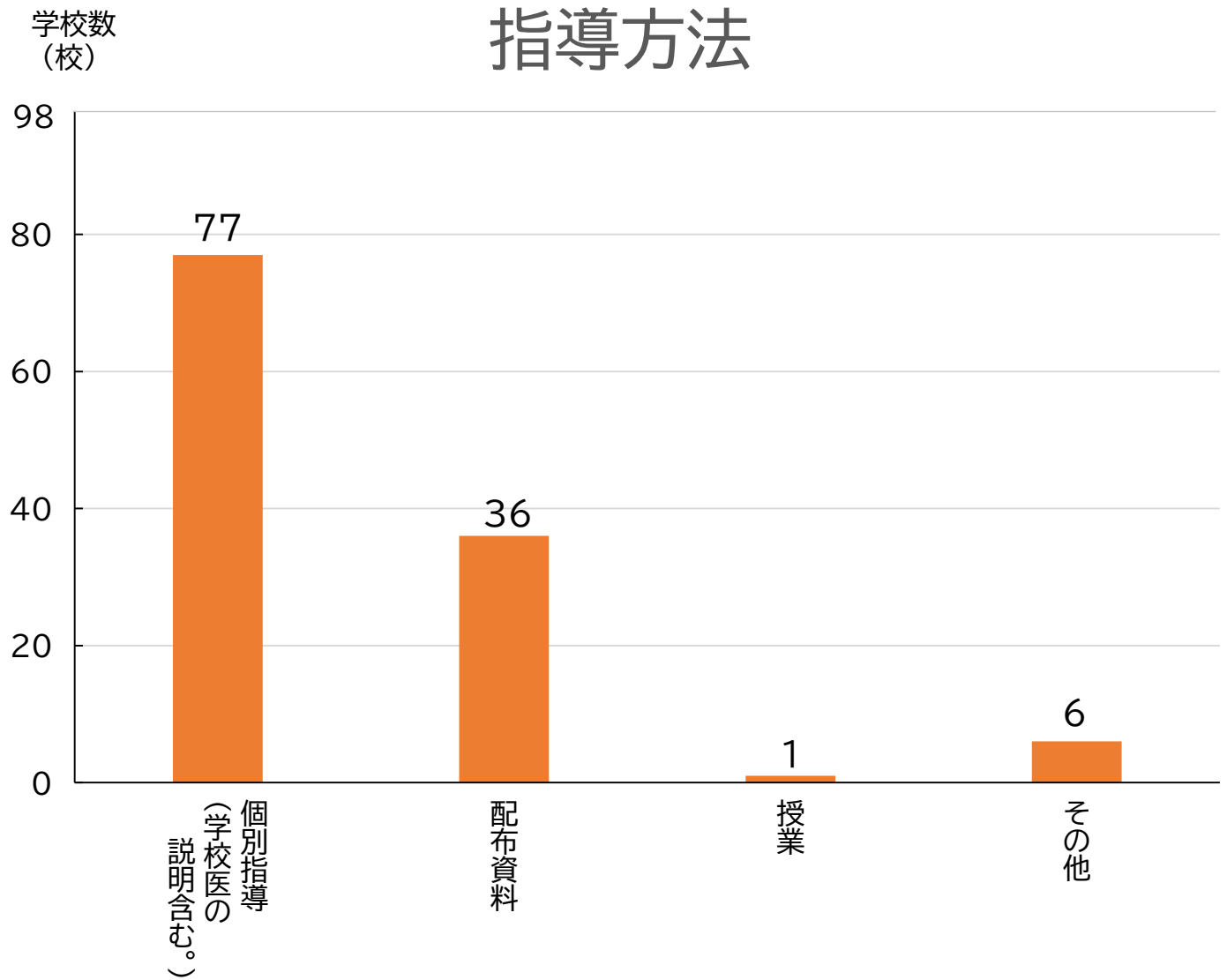


- 1年に数回
- 1年に1回
- 不定期
- 機会なし

[1-2]どのような方法で指導していますか。
(複数回答可)

個別指導 (学校医の説明含む。)	77 (78.6%)
配布資料	36 (36.7%)
授業	1 (1.0%)
その他	6 (6.1%)

※母数は[1-1]でア～オを選択した学校数(98校)



[1-3] 指導する機会がない理由は何ですか。

最も多かった回答

- 使用している生徒がいない、
若しくは、生徒全員が使用しているわけではないため。
- 必要性を感じないため。
(指導に至る事案や目の違和感で保健室に来室した事例がない等)
- なかなか機会が取れないため。
(年度当初に保健指導の時間を計画していない、
他に優先する保健指導がある等) など

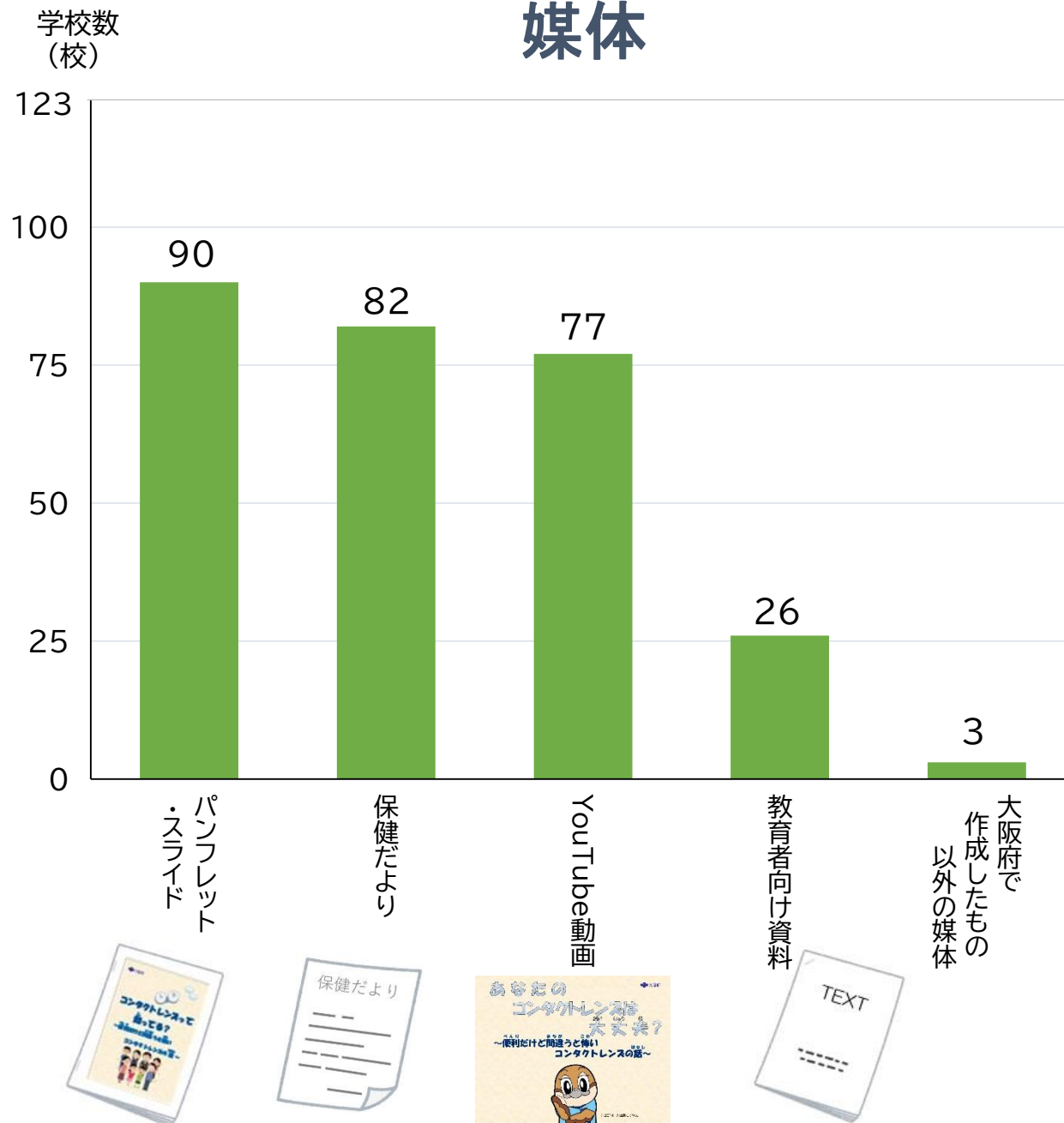
[2-1]大阪府ではコンタクトレンズ適正使用のための啓発資料を作成しています。
 生徒向けの啓発にはどのような媒体が有用であると考えますか。

(複数回答可)

パンフレット・スライド	90 (73.1%)
保健だより	82 (66.7%)
YouTube動画	77 (62.3%)
教育者向け資料	26 (21.1%)
大阪府で作成したもの以外の媒体	3 (2.4%)

※母数は回答があった学校数(123校)

媒体



[2-2]その他有用と考えられる媒体は何ですか。

- ポスター等の掲示物
(保健室に来た生徒が手に取れたり目にする事ができる)
- TikTok動画、Twitter、Instagramで30秒程度の動画や画像。
(日ごろの生徒たちの様子から、静止画より動画だと感じる)
- 啓発動画(コンタクトレンズ購入時)
- Line等からスライドや動画にアクセスできるようにする。
(生徒が自発的に啓発教材に触れる機会になると思う)
- コンタクトレンズの箱、量販店のポップ、販売サイトの購入画面等 など

[3]本府の取組みについて、御意見等がございましたら自由に記載してください。

- 年間に数人は、コンタクトのトラブルが原因と思われる目の不調を訴える生徒が来室をします。引き続き指導に役立つ資料の提供を希望します。
- 視覚支援学校では、音声による資料が使用しやすいため、YouTube動画による啓発資料もあるのがとても有難いです。
- コンタクト利用者は一部の生徒なので、個別に保健指導できるような教材が欲しいです。個別での指導なら動画よりもパンフレットや資料のほうが話しやすいと思います。

[3]本府の取組みについて、御意見等がございましたら自由に記載してください。

- 医療用品なので、保護者向けの啓発が必要。
- カラーの媒体はわかりやすい。写真にきちんと疾患名をつけた方がよい。カラコンをしている生徒は長いつけ爪をしていることが多い。見ている方がこわくなる。各指導にはなぜ、そうしなければならないのか根拠も簡単に説明する方が動機づけしやすい。
- 学校にばかり頼るのではなく、独自で啓発場所を開拓することも視野にいれてほしい。

など